

会 議 録

会議の名称	第7回白岡市立学校適正規模・適正配置審議会
開催日	令和8年3月17日(火)
開催時間	午後6時30分 から 午後8時 まで
開催場所	市役所大山庁舎 1階 大会議室
出席者(出席委員)の氏名・出席者数	神田 小百合、細野 勇人、中村 則裕、小林 大輔、辻 文明 大山 美智子、水野 香奈、矢部 れい美、藤井 亮輔、加藤 政典 濱本 一、安原 輝彦、松崎 慶喜 出席者：13名
欠席者(欠席委員)の氏名・欠席者数	明野 真久、中口 智弘 欠席者：2名
説明員の職・氏名	魅力ある学校づくり推進室主査 相子 純一
事務局職員の職・氏名	教育長 横松 伸二 教育部長兼教育指導課長 長谷川 亘 教育総務課長 高澤 憲司 教育指導課指導主事 福岡 拓弥 魅力ある学校づくり推進室長 齊藤 健 魅力ある学校づくり推進室主査 相子 純一 魅力ある学校づくり推進室主任 内田 直子
その他会議出席者の職・氏名	教育総務課主幹 神田 晶子 教育総務課主事 松本 崇希 ファシリティマネジメント推進課長 佐藤 恒喜 ファシリティマネジメント推進課課長補佐 濱田 貴央 株式会社ファインコラボレート研究所 井口 智庸
傍聴者数	12人
会議次第	別添のとおり
配布資料等	資料1 白岡市立学校の適正規模・適正配置に関する計画策定の将来ビジョン(案) 資料2 市の現状と将来ビジョンについて 資料3 適正規模・適正配置案について

発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
事務局	1 開 会
教育長	2 あいさつ
事務局	3 議 題 それでは議題に入ります。ここからの進行につきましては、濱本会長にお願いしたいと存じます。よろしくお願いいたします。
濱本会長	それでは、会議の開始にあたり、一言ごあいさつを申し上げます。
濱本会長	濱本会長あいさつ
濱本会長	それでは、暫時の間、議長の職を務めさせていただきます。委員の皆様には、限られた時間の中で会議を効果的に進めるため、有意義な議論へのご協力をお願いいたします。 また、本日ご出席いただいている株式会社ファインコラボレート研究所の方からも、必要に応じてご意見を伺うことがありますので、あらかじめご承知おきください。 なお、傍聴の方の入室を許可しておりますので、ご了承ください。
濱本会長	まず、「議題(1) 将来ビジョン（案）について」を議題といたします。前回の審議会での意見などを受けて修正や変更などを行った部分を中心に、事務局から説明をお願いします。
事務局	将来ビジョン（案）について説明
濱本会長	事務局からの説明が終わりました。それでは、ご意見やご質問はございますか。 それでは、安原副会長から、何かご意見などいただけますでしょうか。

<p>安原副会長</p>	<p>今、事務局からご説明があった中で、34ページの「3つの柱」、いわゆる将来の学びの在り方を実現するための柱についてですが、「一人ひとりが輝く『個別最適な学び』と『協働的な学び』の一体的な充実」、「地域とともに育む『協働と創造の学び』の推進」、「安心・安全で『快適な学校環境』の実現」という点やもともと設けられていた第5章の内容などを整理し、今回提示いただいた内容のとおりまとめていただいたという説明がありました。</p> <p>また、44ページの後半部分、「特に、集団の中での『豊かな人間性の育成』を通じて、多様な考えに触れ、互いに認め合い、切磋琢磨する中で『社会性』を育むとともに、『自他を尊重し合える関係づくり』を進め、子どもたち一人ひとりが幸せを感じ、安心して過ごせる環境を整えていきます。」という点について、これからの議論の大きなポイントになると考えています。</p> <p>現在、日本は少子化の流れの中にあり、全国的に学校の適正規模・適正配置の問題や学校教育における学習指導・生活指導といったソフト面の在り方が問われています。その中での論点が、まさにここに示されている内容であり、義務教育9年間、小学校・中学校は生涯学習の基盤となる重要な期間であると考えられます。この点が、今後の議論の中心になっていくのではないかと感じております。</p>
<p>濱本会長</p>	<p>ありがとうございました。安原副会長からもありましたが、白岡の子どもたちの望ましい人間形成を目指していこうという方向で、皆様の意見が整理されていると感じております。</p> <p>他に意見はございますか。</p> <p>それでは、将来ビジョンについては、この内容でまとめる方向としたいと思います。なお、この将来ビジョンは、これから策定する適正規模・適正配置の計画とあわせてパブリックコメントに付し、その後確定となりますのでよろしくをお願いします。</p>
<p>濱本会長</p>	<p>続いて「(2) 適正規模・適正配置（案）について」を議題といたします。事務局から提示される案について、皆さんから幅広くご意見をいただければと存じます。</p>

事務局	適正規模・適正配置（案）について説明
濱本会長	事務局からの説明が終わりました。それでは、皆さんからご意見をいただければと思います。いかがでしょうか。
D委員	<p>難しい問題だと思います。20年後、30年後を考えたときに、持続可能な形としてはパターン②になるのではないかと思います。</p> <p>また、①から④のパターンをみて気になった点として、菁莪中学校区と南中学校区が含まれた水色の部分については、どのパターンも変わっていません。そのままの形で考えられていると思います。これは、検討条件の③に「現在の学校区を考慮する」とあるため、このような形になっているのだと思いますが、今後20年間の中で、最終的には学区の見直し、いわゆる行政区を踏まえた学区の見直しが必要になってくると考えます。</p>
濱本会長	D委員の発言を踏まえると、学区についても検討していく必要があるということで、学校の適正規模・適正配置の検討とあわせて、学区に関する審議会も連動して進められていく形になるのかと思います。
L委員	<p>学区については今後検討されるとのことであれば、現時点では現在の学区をベースに考えるという発想でよいと考えます。その上で、できる限り現在の形を残すことが地域のためになるのであれば、学区の境界部分については、特に柔軟に考えていく必要があると思います。制度にもよりますが、境界付近にお住まいの方については、隣接する学校を選択できるような柔軟な仕組みも考えられるのではないかと思います。</p> <p>また、これは20年後をゴールとして示されているものですが、あくまで最終的な到達点として捉え、まずはその理想像について皆さんで議論することが重要だと思います。その上で、20年後だけでなく、その前段階として10年後、あるいは5年後、3年後といった段階的な取組が起こる可能性もあると考えています。例えば、南中学校区の立場から申し上げますと、現在の案では、将来的に菁莪中学校区といっしょになる方向となっておりますが、それが一度に</p>

<p>濱本会長</p>	<p>実現するとは限りません。先行して中学校が統合となり、その後に小学校が統合されるといった段階的な進め方も考えられると思います。</p> <p>学校の配置についても、現在の場所を活用するのか、人口が多い地域に移すのか、あるいは地理的な中心を取るのかといった議論も必要になると思います。</p> <p>さらに、学校整備の時期についても逆算して検討していく必要があり、非常に難しい議論になると感じています。そこまで一度に考えるのは大変ですので、まずは20年後の理想像を共有し、その後にそこへ至るステップを段階的に整理していくことが重要だと考えています。地域ごとの実情も異なりますので、その点も踏まえて検討していく必要があると思います。</p> <p>L委員のおっしゃるとおり、将来の学校の姿を考える上で、取組を段階的に進めていく必要があると思います。</p>
<p>M委員</p>	<p>4つのパターンのいずれであっても、地区ごとにロードマップは異なってくると思います。</p> <p>今回の審議会の中で、学校施設の老朽化が明らかになったと認識していますが、行政としては、無駄なコストが出ることを避ける必要があると思います。地区によっては、大きな改修を行うことが難しく、改修しても効果が見込めない学校がある一方で、あと5年、10年は現状の施設を活用できる学校もあると思います。そのため、老朽化が進んでいる地区については、改修をせず、統合や新設に向けた検討を進める必要がある一方で、一定期間は既存施設を活用しながら、10年後、20年後を見据えて新しい学校整備を進める地区もあると考えられます。</p>
<p>I委員</p>	<p>資料の内容をみたときに、やはり難しいというのが率直な印象でした。</p> <p>この4つのパターンをみた中で、バランスがよいと感じたのはパターン②です。昨年の春日学園への視察は、とても勉強になったと感じたこともあり、その形を実現できそうなのが、このパターン②、小学校3校・中学校3校の形だと感じました。</p>

<p>B委員</p>	<p>また、5年後、10年後といった中で対応しなければならない部分もあると思いますが、せつかく整備を行うのであれば、思い切った形の方が良いのではないかと感じました。</p> <p>春日学園といった義務教育学校を見学させていただいたことは、とても良い経験であったと感じています。つくば市では、すべての学校が義務教育学校というわけではないとのことでしたが、白岡市は比較的コンパクトな市です。最終的に中学校を2校または3校に集約するのであれば、小中一貫教育の推進の中で、すべての校区で義務教育学校を目指すのか、あるいは可能なところのみ義務教育学校として、その他は小中一貫校としていくのか、といった点について、どの段階で決めていくのか気になります。この会議の中で、そういった方向性についての希望を出してもよいのかという点も、確認させていただきたいところです。</p> <p>個人的には、すべての校区で同様の形、つまり義務教育学校のような形になるのが望ましいと感じています。例えばパターン②であれば、3つの義務教育学校を整備できる可能性があるかと思います。</p> <p>一方で、パターン①のように、中学校1校に対して小学校2校という形になると、義務教育学校の設置は難しくなるのではないかと感じました。そのあたりについても、今後議論させていただければと思います。</p>
<p>F委員</p>	<p>将来ビジョンを拝見しましたが、私はこの将来ビジョンはとても良い内容だと感じています。特に2つ目の柱で「地域」が前面に出てきている点が非常に良いと思いました。通常、このような柱立てでは、1つ目・2つ目が学校に関する内容で、3つ目に家庭や地域との連携が位置づけられることが多いと感じていますが、今回は2つ目に「地域とともにある学校づくり」が掲げられています。地域の特性や資源を生かした学校づくり、さらに3つ目の柱においても、学校施設と公共施設との複合化や地域の拠点としての学校という視点が盛り込まれている点を踏まえると、小学校・中学校それぞれが地域と一体となっていく姿がみえてくると感じました。</p>

G委員

また、小中一貫教育や義務教育学校といった方向性も将来的にみえてくる中で、総合的に考えるとパターン②が最も適しているのではないかと思います。もはや学校だけで教育を完結させる時代ではなく、「開かれた学校」でもない「地域とともにある学校」と言われている現状を踏まえると、私としてはパターン②が最も現実的にみえました。

いずれのパターンも将来ビジョンに基づいており、それぞれ重要な要素が含まれているため、すべてを満たす案を選ぶのは難しいと感じています。その中で、市の方針として小規模校への対応が一つの大きな前提となっている点は、忘れてはいけなとと考えています。

4つのパターンをみていく中で、細かい検討は今後進んでいくと思いますが、特に小学校については難しさを感じています。例えばパターン②の場合で篠津中学校区をみると、将来的に篠津小学校と白岡東小学校が統合されるイメージを想定できると思いますが、通学手段が大きな課題になると考えています。資料には通学手段の見直しが見直しが示されていますが、現実的には非常に大きなハードルです。

実際に西小学校では大山小学校との統合に伴い、現在バスを3台運行していますが、今後児童数が減少する中で、予算の制約などから台数を減らすことも考えられます。そうなるさまざまな課題が生じてきます。

中学生については、自転車通学などにより、ある程度対応可能であり、通学時間の問題も比較的解消しやすいと考えていますが、小学生については事情が異なります。一般的に適正な通学距離はおおむね4km以内とされていますが、小学1年生が4kmを歩くのは現実的に難しいです。実際、菁莪地区でも隣接している春日部市に近い地域に住んでいる児童は40分から50分かけて通学している状況です。

スクールバスで対応する場合は、予算や運行体制、責任の所在など、現場では多くの課題があります。

そのため、中学校についてはある程度、統合の方向性を描きやすい一方で、小学校については通学の課題を解消しない限り、なかなか前に進めないのではないかと感じています。

	<p>また、白岡東小学校については、別の形での検討、例えば独立した学校配置なども考えられるのではないかと個人的には感じています。</p> <p>さらに、篠津小中学校については老朽化の問題で早急な対応が必要とされている中で、建替えを実施する際には、他校と統合するのか、あるいは別の形を取るのかといった検討も必要になると思います。</p> <p>いずれにしても、通学手段の問題は非常に大きな課題であり、この点を解決しない限り、計画の実現は難しいのではないかと考えています。</p>
K委員	<p>適正規模・適正配置の検討条件の中で考えるのであれば、やはりパターン②がよいのではないかと個人的には思います。</p> <p>しかし、20年後を想定した場合、市としてどの場所を中心に人に住んでもらうのかといったまちづくりの方向性によっては、生活圏によって人口がさらに減少する可能性もあります。その意味では、適正配置については慎重に考えていく必要があると感じています。</p> <p>また、検討条件を一度外して考えてみると、白岡駅と新白岡駅という2つの拠点がありますので、駅前に学校を配置し、そこへスクールバスを運行する形も考えられるのではないかと考えました。さらに、そのバスを市民も利用できるようにすれば、公共交通としての役割も果たし、まちづくりにもつながるのではないかと考えました。ただし、今回は検討条件を踏まえて議論するという前提がありますので、その中ではパターン②がよいのではないかと考えています。</p>
M委員	<p>この適正規模・適正配置案を示すことで、市民の方には「20年後には学校はこのような配置になります」というメッセージが伝わると思います。その中で、「この学校に通いやすい場所に住もう」といったように、住む場所の選び方につながるのではないかと考えます。居住地の誘導のようなことについて、事務局として考えがあるのであれば教えていただきたいです。</p> <p>例えば、現在は通学距離の問題で不便を感じている地域があったとしても、20年後には居住状況が変わり、結果としてその課題が解消される可能性もあ</p>

事務局	<p>るのではないかと感じています。この点について、事務局として何かお考えがあればお聞かせください。</p> <p>そのような考えは持っておりません。</p>
J委員	<p>今後5年、10年という視点でみると、スクールバスなどによる通学対応を考えることになると思いますが、20年後を考えると、状況は変わっている可能性があると感じています。</p> <p>現在の日本では、子どもが徒歩で登下校するのが一般的ですが、海外から見るとそれは非常に珍しいことだと言われています。将来的には、保護者による送迎やバス通学が主流になる可能性もあるのではないかと思います。そう考えると、人口が少ない地域に新たに学校を設置するほうが、送迎や交通渋滞の観点からも有効な選択肢の1つになり得るのではと考えています。</p> <p>また、篠津地区では大きな施設整備も進んでいることから、今後、人の流れが変わる可能性もあり、県外からの流入なども含めて、地域環境の変化に伴う安全面への不安も感じています。そうした中で、子どもたちだけで登下校させることへの不安もあるのが正直なところです。</p> <p>もう一点ですが、篠津中学校区は2つの小学校があり、新しい友達ができたり、異なる環境で育った子ども同士が刺激を受け合うなど、良い面も多くあると思っています。一方で、ごく一部では環境の変化に適応できない子どもが出てしまうケースや、保護者間のトラブル、PTAに対する考え方の違いなど、課題を感じている部分もあります。そうした点も踏まえると、9年間を通して同じ環境で過ごせるという意味で、パターン②が最も安定した形であり、個人的には納得感があります。</p>
H委員	<p>パターン②についてですが、小中のつながりを意識した学びという点や教員の立場からすると、教育が最も行いやすい形ではないかと感じています。資料では学校が隣接しているように見え、施設が一体型なのか、あるいは分離型なのか、現時点では分かりませんが、いずれにしても現在よりも小中の教員同士の連携が取りやすくなり、9年間子どもたちをみていけることは、大きなメ</p>

<p>濱本会長</p>	<p>リットだと思えます。また、それを支える地域やコミュニティ・スクールの取組も充実していくと考えられ、地域とのつながりもより深く、途切れることなく継続していくのではないかと思います。そのため、パターン②は非常に望ましいと感じています。ただし、パターン②に至るまでの過程として、場合によってはパターン④を経由することも考えられると思いますが、最終的にはパターン②を目指していくことが最もよいのではないかと考えます。</p> <p>皆さん、貴重なご意見をありがとうございます。</p> <p>最終的な方向としては、委員の皆さんの多くがパターン②を念頭に置いているように感じています。また、そこに至るまでは、ロードマップをしっかりと描きながら進めていく必要があるとの意見が出ております。</p> <p>さらに、パターン②に至る過程の中でパターン④のような形もあり得るのではとの意見もいただきました。</p>
<p>L委員</p>	<p>皆さんのお話を伺っていて気になった点があります。</p> <p>今回の議論は20年後を見据えたものですが、現在の通学手段は徒歩や自転車、車、電車などがあり、その多くに共通して関わってくる要素は「道路」だと思います。今後20年間にわたり、白岡市としてどのような道路整備を進めていくのかという点は、小中学校の配置を検討する上でも非常に重要な要素になると考えます。そのため、道路整備の計画やビジョンについて、可能な範囲で情報を共有いただきながら、学校配置とあわせて検討していく必要があるのではないかと思います。</p> <p>また、老朽化が進んでいる学校については優先的に対応していく必要がありますので、まずはそうした学校や地域を起点として、どのように学校再編を進めていくのがよいのか検討していく必要があると思います。</p> <p>特に道路環境の整備は重要な視点になると感じているので、今後の議論にあたって関連資料や情報の提供をお願いできればと思います。</p>
<p>B委員</p>	<p>今、皆さんのご意見を伺うと、最終的にはパターン②の方向に進むことが理想的であるという流れであると感じております。</p>

	<p>また、H委員のお話にもありましたが、学校づくりの中心はやはり先生方であると感じており、小中一貫で9年間子どもたちをみていけることの意義については、私自身も非常に理解しております。</p> <p>そこで一点、ぜひ忘れないでいただきたいのは、資料に示されている学級数についてです。以前も申し上げましたが、これらは普通学級の数であり、特別支援学級は含まれておりません。現在、西小学校では特別支援学級が非常に増加しており、ここ10年で約3倍になっています。今後さらに10年、20年と経過した際にどの程度増加するのかは不透明ですが、減少するとは考えにくい状況です。そのため、学級数の指標としては理解できるものの、特別支援学級の増加についても考慮する必要があると考えます。</p> <p>例えば、西小学校・白岡中学校が現状のまま進む場合、西小学校では来年度からプレハブ校舎の整備が予定されていますが、それでも将来的に教室が不足する可能性があります。また、人口が微増している状況を踏まえると、白岡中学校においても教室不足が懸念されるどころです。</p> <p>今後、予算の制約の中で校舎整備を進めていくことになると思いますが、こうした「見えにくい学級数」、すなわち特別支援学級の増加についても、ぜひ考慮していただきたいと思います。</p>
濱本会長	<p>ありがとうございます。特別支援学級については、今後増加していく可能性があり、重要な視点であると思います。</p>
H委員	<p>特別支援学級の教員の中には、「この支援でよいのだろうか」と試行錯誤しながら指導にあたっているという現状があります。そのような中で、小中の教員同士が同じ児童生徒について情報共有を行い、「どのように支援していくべきか」を一緒に考えられる環境があることは非常に大きな意味を持つと思います。また、特別支援学級に限らず、通常の教室に馴染みにくい児童生徒に対しても、相談室や教育支援センターなどと連携しながら支援を行っていますが、学校自体の機能がさらに充実すれば、サポートルームのような新たな居場所を設けることも可能になると考えています。</p>

E委員	<p>そのような場において、小学生と中学生がともに学べる環境を整えることも、一つの理想として考えられます。教員としては、中学校で課題が見えた際に、「小学校時代はどうだったのか」と振り返ることが多くあります。その際に、小学校の先生と直接連絡を取り、情報を共有することで、解決の糸口が見つかることもあります。</p> <p>このように、小中の連携が強まることは、結果として子どもたちへの支援の質の向上につながると考えています。</p> <p>さまざまな課題があり難しい問題ではありますが、これまで皆さんがおっしゃっているとおり、私自身も20年後の理想像としては、パターン②であると考えています。</p> <p>ただし、そこに至るまでには多くのハードルを乗り越えていく必要があり、段階的にパターン②を目指していくことが重要だと思います。また、現在の篠津小学校は非常に歴史のある学校であり、例えばパターン④を経由するような形も考えられますが、その際には建替えなどを行った費用が有効に活用されるかという視点が重要になると感じています。一度大きな建替えを行えば、建物として一定期間は使用していくこととなりますので、その点も踏まえて慎重に検討していく必要があると思います。</p> <p>さまざまな課題がありますが、本審議会で検討している適正規模・適正配置はあくまで手段であり、その先にある人口動向やまちづくりの方向性も見据えながら検討していく必要があると考えています。</p>
濱本会長	<p>皆さん、たくさんのご意見をありがとうございます。本日の議論を通じて、皆さんの多くが、20年後の姿としてはパターン②が望ましいという方向で一致していると感じました。</p> <p>一方で、そこに至るまでには多くの課題があるという点についても、共通認識が得られたのではないかと思います。</p> <p>具体的には、施設の問題、特別支援学級の増加への対応、まちづくりの視点、道路環境の整備など、さまざまな要素を踏まえながら、どのようにパターン②へ近づけていくかが重要であると考えます。</p>

	<p>それでは事務局にお伺いしますが、本日いただいた意見を踏まえ、次回の審議会は、パターン②を軸とした形で、具体的な学校の再編案を示していただくことは可能でしょうか。</p>
事務局	<p>本日は多くの意見をいただき、ありがとうございました。いただいた意見を踏まえまして、次回は再編に関するより具体的な案をお示しできるよう準備を進めてまいりたいと考えております。</p>
D委員	<p>1点伺いたいのですが、「パターン④からパターン②へ移行する」という考え方については、あまり想定されていないのではないかと個人的には感じています。まず、篠津小学校の老朽化の問題が前提としてあり、建物の状況からすると、早急に対応が必要であるという認識です。</p> <p>そうなると、まずは篠津小学校への対応が先決であり、その際にどのような形で整備していくかを考える必要があります。そのため、「パターン4からパターン2へ」という段階的な流れは現実的ではないのではないか、という印象を持っています。</p> <p>また、先ほどL委員やM委員からもありましたが、20年後の姿はみえてきている一方で、その途中の段階をどうするのかという点が重要だと思います。現時点では白紙に近い状態であるため、「パターン④からパターン②へ」という意見も出ていますが、実際にはそのような単純な流れではないのではないかと考えています。</p>
事務局	<p>事務局としては、最終的にはパターン②を目指す方向で考えておりますが、その過程においてはパターン④のような形を経る可能性もあると考えております。</p> <p>篠津小学校は、老朽化が進行しており、早期の建替えが必要な状況であることに変わりはありません。一方で、篠津中学校区は白岡東小学校とともに成り立っている地域でもありますので、今後の進め方については、地元の意見を伺いながら検討していく必要があります。</p>

D委員	<p>そのため、途中段階としてパターン④に近い形を取る可能性も含めて、検討していきたいと考えております。</p> <p>今のお話を踏まえると、順序としては篠津小、それから菁莪小中学校への対応を先に実施するという考えなのでしょうか。</p>
事務局	<p>老朽化の状況を踏まえると、篠津小学校については優先的に建替えを行う必要があると考えています。ただし、建替えにあたっては、その規模をどのように設定するかが重要な検討事項となります。</p> <p>具体的には、篠津小学校単独の規模で建替えるのか、それとも将来的に白岡東小学校を統合することを見据えた規模とするのか、という点です。</p> <p>一方で、白岡東小学校については現時点では建物の状態も良好であり、すぐに対応が必要な状況ではありません。そのため、直ちに統合を前提とする必要はないと考えております。</p> <p>ただし、今後、児童数の推移などを踏まえながら、どの時点で統合を検討するのか、あるいはどのような形で存続させるのかについては、引き続き検討が必要です。</p> <p>現時点で確実に言えるのは、篠津小学校は老朽化が進行しているため、早急に建替えを行う必要があるという点です。その上で、建替え時の規模については、今後の検討課題であると考えております。</p>
事務局	<p>本日の皆様の議論を通じて、事務局の考えと合致する点も多くあり、新たに気づかされる点も多くありましたので、今後の検討にしっかりと反映していきたいと考えています。</p> <p>本日お示ししたのは、あくまで適正規模・適正配置に関する内容ですが、本日いただいた意見は、今後の再編整備の検討に関わる重要な視点になると考えています。</p> <p>再編整備を進める中では、児童生徒数が減少していくことが見込まれるため、例えば、現在の人数を前提にパターン①や③のような形で整備を行った場</p>

	<p>合、将来的には過大な規模となり、結果として経費面で無駄が生じてしまう可能性があります。</p> <p>また、特別支援教育についても、現状のまま推移するのか、あるいはインクルーシブ教育の進展により形が変わるかなど、将来の見通しが難しい部分もあります。</p> <p>次回の審議会では再編整備案について、できる限り具体的な内容をお示ししたいと考えていますが、その際には、経費の視点や施設規模の検討も含めて整理する必要があると考えています。5年後、10年後、20年後といった時期によって必要な施設規模は異なってきます。そうした中で、どのタイミングで建替えを行うのが最適なのか、また現状の施設の老朽化への対応をどのように図るのかといったバランスを考慮する必要があります。</p> <p>さらに、地域やPTA、地元住民の意向など、地域との関係性も重要な要素であり、それらを踏まえた上で一つの方向性を示すことは容易ではないと認識しています。本日いただいた意見を踏まえ、次回、どこまで具体的な案をお示しできるかは現時点では分かりませんが、皆様の議論がさらに深まるような資料を提示できるよう努めてまいります。</p>
<p>濱本会長</p>	<p>ありがとうございます。さまざまな要素を含めた上で、今回は具体的な案が提示されるということだと思います。</p> <p>その際には、パターン④についても視野に入れながら、全体を検討していく必要があると感じています。</p>
<p>L委員</p>	<p>今の議論の中で1点気になったことがありました。</p> <p>建替えを行う場合、その規模にもよりますが、工事期間中に学校が使用できなくなる可能性があります。その際、現在通っている子どもたちがどこに通うのかという問題が生じるのではないかと感じました。例えば、完全に別の場所に新設する場合であれば問題は少ないかもしれませんが、既存の敷地を活用して建替える場合には、一時的に校舎が使えなくなることも想定されます。</p> <p>その場合、例えば篠津中学校区で考えると篠津小学校の児童が一時的に白岡東小学校へ通うといったことが考えられ、逆のパターンも考えられます。</p>

<p>濱本会長</p>	<p>このように、さまざまな対応パターンが考えられる状況で、現時点では方向性が確定しているわけではないため、「必ずこの形になる」という前提で議論を進めるのではなく、今後の状況を踏まえながら柔軟に検討していくことが重要ではないかと感じました。</p> <p>そのため、現段階では一定の方向性を持ちつつも、具体的な進め方については今後の検討に委ねるという考え方もよいのではないかと思います。</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>現時点で結論を固定してしまうと、別の課題が生じる可能性もありますので、さまざまなパターンを想定しながら検討していくことが重要だと思います。</p> <p>それでは、改めて事務局に伺いますが、次回の審議会は、本日いただいた意見を踏まえ、すべてを網羅することは難しいかもしれませんが、パターン②を基とした再編案やロードマップのようなものも含めて提示していただければと思いますがいかがでしょうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>できる範囲で準備を進め、次回の審議会でお示しできるよう対応させていただきたいと考えております。</p>
<p>濱本会長</p>	<p>ありがとうございます。それではそのような形でお願いいたします。</p> <p>最後に、安原副会長から一言お願いいたします。</p>
<p>安原副会長</p>	<p>改めて本日の議論を伺い、これまで以上に前向きで建設的な意見が多く出されたと感じています。</p> <p>その上で、あえて皆様に確認しておきたい点があります。それは、議論を進める中で、時として目的と手段が逆転してしまうことがあるということです。</p> <p>本日のテーマである適正規模・適正配置は、あくまで「手段」であり、「なぜそれを行うのか」という目的を見失ってはいけないと感じています。その目的は、将来ビジョンにも示されているとおり、子どもたちの資質・能力を育成</p>

することにあります。学校は、未来を担う子どもたちの力を育てる場であり、そのためには教員がその力を十分に発揮できる環境づくりも重要です。

また、教育は学校だけで完結するものではなく、家庭・地域・学校が一体となって子どもを育てていくことが求められています。そのために、どのような適正規模・適正配置が望ましいのかを考えていくことが、本来の議論の軸であると考えます。

地域の歴史や思い、学校への愛着など、さまざまな要素があることも理解していますが、最終的な目的は何かという点は常に意識しておきたいと思えます。

また、本日の議論の中で、将来の学校の姿として白岡駅や新白岡駅周辺に拠点校を設けるといった意見もありました。仮にそうした将来像を描くのであれば、10年後、20年後を見据え、段階的にどのように進めていくのかを考える必要があります。

例えば、老朽化が進んでいる篠津小学校の建替えを契機に、段階的に施設を拡張し、将来的には義務教育学校として整備していくといった構想も考えられるかもしれません。

さらに長期的には、白岡市に2つの義務教育学校があり、そこで育った子どもたちが「ふるさとの学校」として集まれるような存在になる、という将来の学校像も描くことができるのではないかと思います。

また、ここ10年の社会の変化を振り返ると、2015年頃と比べて、ICTや教育環境は大きく変化しました。10年後、20年後も同様に大きな変化が起こる可能性があります。

そうした変化も見据えながら、現実的な検討とあわせて、将来に向けた夢や可能性についても議論していくことが重要ではないかと感じました。

ありがとうございました。

以上で本日の議題はすべて終了しました。皆様のご協力に感謝申し上げます。それでは、進行を事務局にお返しします。

濱本会長

事務局

4 その他

	<p>～事務局から、「次回審議会の日時について」、「シンポジウムについて」、「報酬及び費用弁償の支払いについて」を説明～</p>
事務局	<p>委員の皆様から何かございますか。</p>
委員一同	<p>意見、質問等なし</p>
事務局	<p>5 閉 会</p> <p>本日は長時間にわたり、熱心なご議論ありがとうございました。これをもって、会議を終了いたします。</p>